



TITLE:

昭和五年二月の天象

AUTHOR(S):

CITATION:

昭和五年二月の天象. 星 1930, 2: 20-23

ISSUE DATE:

1930-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168982>

RIGHT:

昭和
五年

二月の天象

太陽

日	赤 經	赤 緯	視 直 徑	星 座
1	20時57分34秒	南 17度13分	32分31秒	や ぎ
11	21時37分43秒	14度10分	32分27秒	や ぎ
21	22時16分34秒	10度43分	32分25秒	みづがめ
(31)	22時56分37秒	7度22分	32分19秒	みづがめ

月始め寶瓶宮に在るが、19日から双鱼宮に入る。太陽の自轉軸は西方に傾斜し、月初12度、月末に21度となる。太陽北極は見えず、月末は、今年中で最もよく南極の見える時である。

月

月 の 相	時 刻	視 直 徑	星 座
上 弦	7日午前 2時25分48秒	31分18秒	ひ つ じ
満 月	13日午後 5時38分36秒	33分19秒	し し
下 弦	20日午後 5時44分24秒	30分14秒	さ そ り
新 月	28日午後10時32分42秒	29分46秒	みづがめ
近地點通過	12日午後10時 0分	33分24秒	か に
遠地點通過	25日午前 9時30分	29分25秒	い て

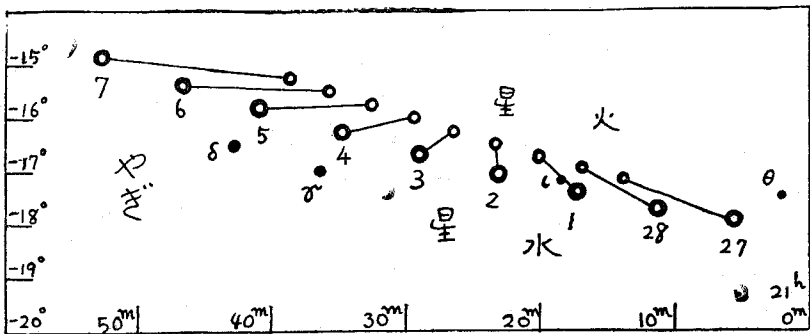
月は先づ最初に4日午前5時に天王星に追ひ付いて、其の南側2度の所を通り過ぎる。次には8日午後1時に木星を追ひ越す。此の時は木星の北側3度の箇所を通る。14日午前5時には海王星と出合つて、その北側4度の所をすれ違ふ。23日には土星を、午後9時に追ひ越す。26日午後4時に水星に迫つて、其の南側を通り過ぎ、更らに同26日午後8時には、火星に追ひ付いて、矢張り南側を通過する。此れで、今月の遊星歴訪を終るが、何れも甚だ遊星に接近しないで、大抵3度乃至4度離れた所を通り過ぎてゐるのであまり面白い景色ではない。

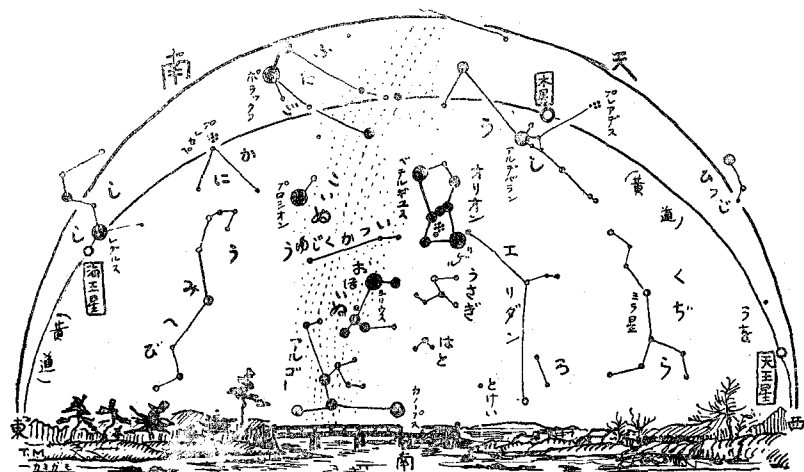
火星と水星との合

來月(三月)2日午前6時に火星と水星とが會合し、其の時の離角は僅かに半度である。而かも水星は、西方最大離角の後、左程日數も經つてゐないので、觀望には甚だ都合がよい。従つて今月末から注意せられるのもよからう。

兩遊星共午前5時過ぎに東に出る。従つて、日の出より約1時間早い。水星の光度は0.0等級、火星は1.5等級。視直徑は火星が殆んど4秒を持續してゐるのに對し、水星は27日に5.9秒、2日に5.7秒、7日には5.4秒と、ぐんぐん小さくなつて行く。

圖は毎日午前5時に於ける兩星の位置を示したもので、位置は「やぎ」座。同座デ星の光度3.0等級、ガ星は3.8等級、イ星は4.3等級、テ星は4.9等級である。2月28日の朝には火星が、3月1日の朝には水星がイ星に近い。





遊 星 界

水 星 始め「いて」座 54 番星附近で停留なり、2日から順行して15日には、「いて」「やぎ」の境、「やぎ」座シグマ星に近く、更らに順行して月末には、「やぎ」座の東部たる、同座 29 番星近くまで進む。今月中暁の東天に見え、殊に15日には、西方最大離角 26 度となり、今年中では8月に次ぐ大な離角で、観望には甚だ都合がよい。15日では午前5時24分東天に登る（太陽より約1時間半早い）。光度は零等。15日の視直径は 6.8 秒である。

金 星 6 日に外合になるので、今月は殆んど見えない。

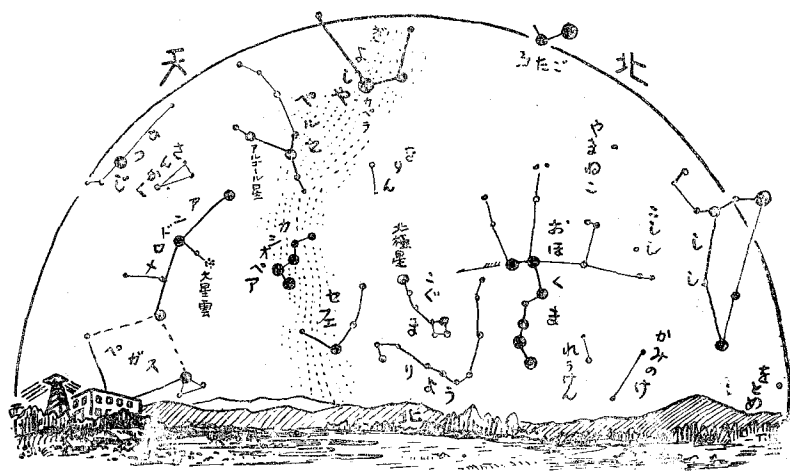
火 星 暁の星で、「いて」座の東部より順行して「やぎ」座の東部まで進む。月末になる程よい。月末には水星が極く近くまで追ひ付いて来る。そして来月2日午前6時に僅か半度の近距離に並ぶ。火星は北側。光度1等半。視直径4秒

木 星 宵の星「うし」座中央を順行中。光度負2等。視直径39秒。

土 星 暁の星で、火星、水星等より早く登る。位置は「いて」座。アンタレスの稍西に位し、徐々に順行してゐる。光度1等。視直径14秒。

天王星 宵の星「うを」座 44 番星の東を徐々に順行してゐる。光度6等。視直径3秒。双眼鏡でも見付ける事は容易である。

海王星 宵に東に登る。「しし」座レグルスの東1度。光度8等。視直径3秒。



恒星界

「くぢら」は既に没して、「ひつじ」「さんかく」「アンドロメ」も西空に低い。今やシリウスを總大將とした真冬の星々が、丁度子午線に沿ふて居並ぶ——「オリオン」や「うし」「ふたご」「ぎよしや」等の巨星連が——。之に加へて、「うし」座には負2等級の木星があるので、一層此の附近を賑やかなものにしてゐる。

銀河は北西から、天頂を通つて東南に流れて、宵の間は西空の黄道光と光を競ふが、時間が経つに従つて、次第に西へ押しやられる。それに代つて東天には「しし」や「おこめ」の春の代表者が現はれ、尙續々と「まきを」「かんむり」「ヘルクレス」等が登つて来る。

南方に「はと」や「うさぎ」の可愛らしい星座が見える頃になると、北では北斗七星が相當高くなつて來て、親しみ深い姿で北極を指示してゐる。